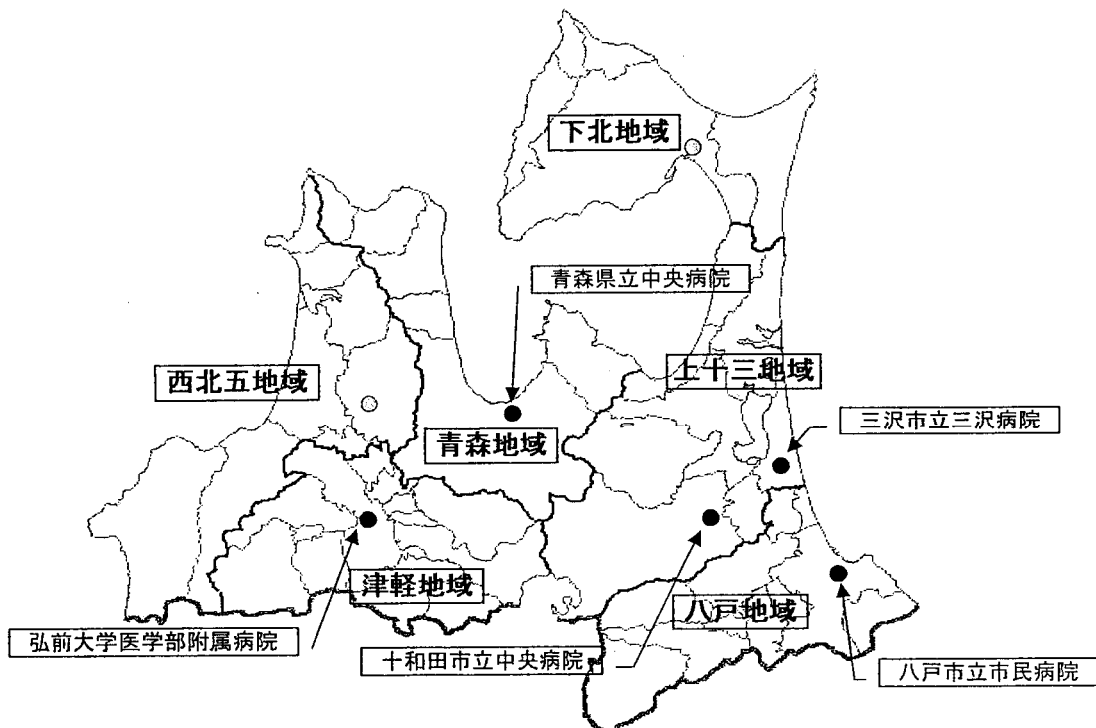


推薦意見書
(抜粋)

青森県 2次医療圏の概要

1. 圏域図

※所属する2次医療圏が分かるよう、がん診療連携拠点病院名を記載すること。



2. 概要

(平成18年10月31日現在)

医療圏名	面積(km ²)	人口	人口割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院		
						既指定病院数	今回推薦病院数	計
青森地域保健医療圏	1,477.14	339,386	23.7	229.8	25	1		1
津軽地域保健医療圏	1,597.67	316,882	22.1	198.3	28		1	1
八戸地域保健医療圏	1,346.38	347,138	24.2	257.8	28	1		1
上十三地域保健医療圏	2,017.69	190,463	13.3	94.4	13		2	2
西北五地域保健医療圏	1,752.78	154,979	10.8	88.4	10			
下北地域保健医療圏	1,414.67	83,599	5.8	59.1	5			
計	9,606	1,432,447	100.0	149.1	109	2	3	5

注1) 「人口割合」欄は、県全体の人口に対する圏域ごとの割合を記入すること。

注2) 「人口密度」欄は、各医療圏ごとに、人口/面積(km²) (小数点以下第2位四捨五入)により算出した数値を記入すること。

注3) 「病院数」欄は、拠点病院以外の病院(診療所は除く。)も含めた数を記入すること。

注4) 「今回推薦病院数」欄は地域がん診療連携拠点病院を都道府県がん診療連携拠点病院へ指定変更する場合には()書きで、指定更新の場合には< >書きで、内数を示すこと。

- ・ 相談支援機能の提供
 (十和田市立中央病院)
 相談支援センターが設置されていることから、指定要件は充足されていると認められる。
- (三沢市立三沢病院)
 相談支援センターが設置されていることから、指定要件は充足されていると認められる。
- ・ 院内がん登録の実施
 (十和田市立中央病院)
 院内がん登録が実施されており、指定要件が充足されていると認められる。
- (三沢市立三沢病院)
 院内がん登録が実施されており、指定要件が充足されていると認められる。

(4) 十和田市立中央病院、三沢市立三沢病院の指定推薦について

十和田市立中央病院、三沢市立三沢病院はいずれも中規模であるが、両病院により、実質的には上十三地域医療圏におけるがん医療の多くを担っている状況にある。両病院とも、単独で指定要件を充足していると認められるが、上十三医療圏における優良ながん医療の提供を図っていく場合、

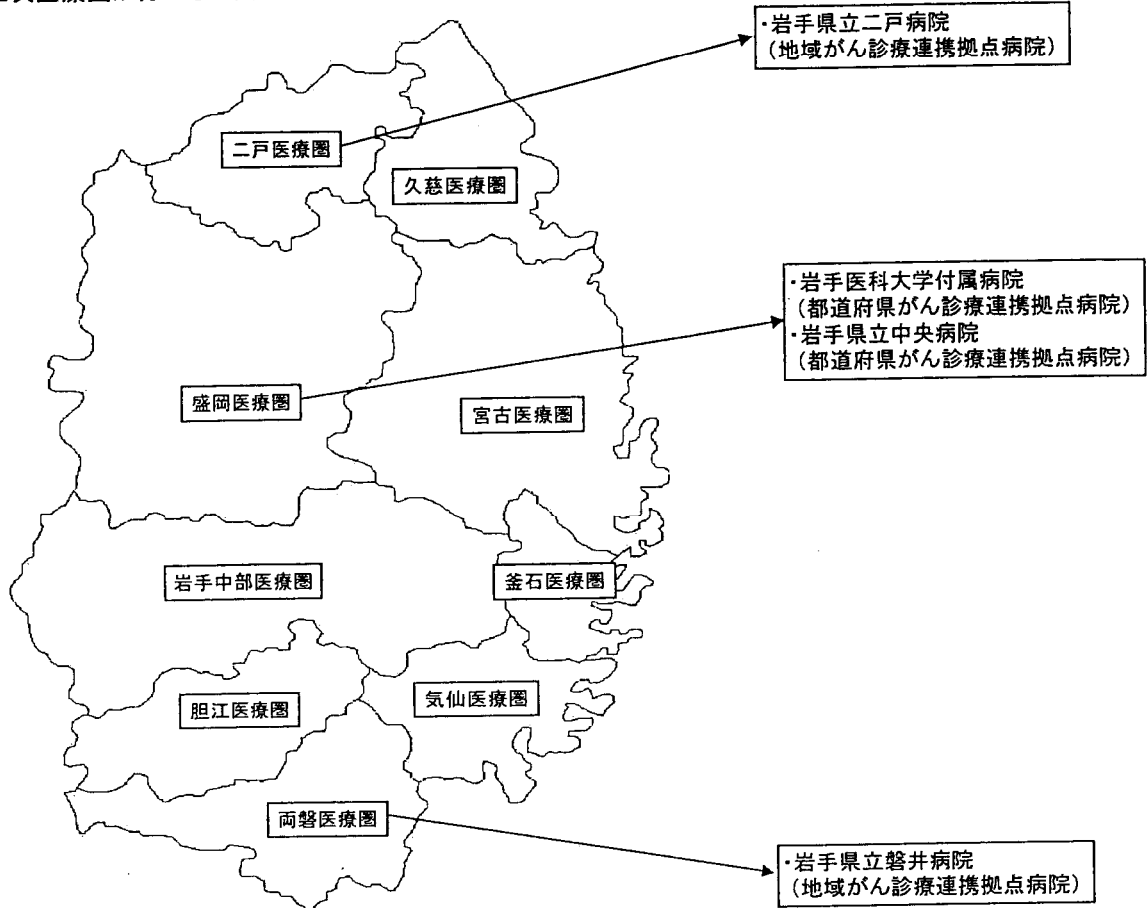
- ① 十和田市立中央病院は、圏域内で最も病床規模が大きく、また、がん手術数も最も多く、優良な緩和ケアをはじめとしたがん医療を提供しており、拠点機能を有していること。
- ② 三沢市立三沢病院は、当該圏域内における化学療法・放射線治療を担っているほか、本県におけるがん医療対策を図る上での重要ながん化学療法の拠点機能を担い、他圏域からのがん化学療法に伴う患者の受け入れ、がん医療専門医の育成（がん薬物療法専門医研修認定施設）、医師・看護師等の研修、県民を対象とした講演・セミナーなどを行っていること。
- ③ 両病院は機能分担と連携の下にがん医療を提供しており、当圏域において自治体病院機能再編を進めていくためにも、今後も機能分担と連携を深めていく必要があること。
- ④ 両病院が機能分担と連携のもとに、一体として連携して機能する病院として指定を受けることにより、圏域住民に対して専門的できめ細やかな医療サービスを提供することができること。

から、両病院について、一体として連携して機能する地域がん診療連携拠点病院として指定されるよう推薦を行うこととする。

岩手県 2次医療圏の概要

1. 圏域図

※所属する2次医療圏が分かるよう、がん診療連携拠点病院名を記載すること。



2. 概要

(平成18年9月1日現在)

医療圏名	面積(km ²)	人口	人口割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院		
						既指定病院数	今回推薦病院数	計
盛岡医療圏	3,641.90	487,788	35.47%	133.94	43	1	2(1)	2(1)
岩手中部医療圏	2,762.27	236,973	17.23%	85.79	15			
胆江医療圏	1,173.12	145,825	10.60%	124.31	10			
両磐医療圏	1,319.64	143,307	10.42%	108.60	10		1	1
気仙医療圏	890.35	74,019	5.38%	83.13	4			
釜石医療圏	641.89	58,607	4.26%	91.30	6			
宮古医療圏	2,672.42	98,397	7.16%	36.82	7			
久慈医療圏	1,076.83	65,964	4.80%	61.26	4			
二戸医療圏	1,100.21	64,246	4.67%	58.39	4		1	1
計	15,278.63	1,375,126	100.00%	90.00	103	1	4(1)	4(1)

注1) 「人口割合」欄は、県全体の人口に対する圏域ごとの割合を記入すること。

注2) 「人口密度」欄は、各医療圏ごとに、人口/面積(km²) (小数点以下第2位四捨五入)により算出した数値を記入すること。

注3) 「病院数」欄は、拠点病院以外の病院(診療所は除く。)も含めた数を記入すること。

注4) 「今回推薦病院数」欄は地域がん診療連携拠点病院を都道府県がん診療連携拠点病院へ指定変更する場合には()書きで、指定更新の場合には< >書きで、内数を示すこと。

推薦意見書

I 都道府県がん診療連携拠点病院

都道府県がん診療連携拠点病院として下記二医療機関を推薦する。

推薦にあたっては、県土が広大であることや、全国でも最下位レベルの医師数（人口10万対当たり）等の状況の中で、総合的ながん対策を進め、高度専門的ながん医療提供体制を充実強化し、本県におけるがん医療の均てん化・水準向上を図るためには、下記二医療機関の有する診療機能等の特性と限りある人材を最大限に活用するとともに、その機能分担と連携による体制整備が必須であることを勘案したものである。

(1) 岩手医科大学附属病院

岩手医科大学は、本県唯一の医育機関として、医師をはじめとした医療を担う人材を育成、輩出するとともに、高度医療の研究・技術の開発・普及、がん医療をはじめとした地域医療の確保に多大な貢献をしてきたところである。

平成6年2月、特定機能病院として承認され、高度先進医療の研究・開発に取り組むとともに、各学会の診療ガイドライン等に準じた標準的な治療の実施体制の整備・充実を図り、診療機能の向上に取り組んできたところである。また、日本臨床腫瘍研究グループ参加施設として、多施設臨床試験に取り組んでいる。

これらの取組の成果として、平成17年の治療実績は、悪性腫瘍手術1,585件、放射線治療596件、化学療法（抗がん剤治療）704件となっている。胃・大腸、肺、乳房の悪性腫瘍手術件数は県立中央病院と同等の症例数であり、子宮、肝臓・胆嚢・膵臓のなどの悪性腫瘍手術件数は県内一の症例数を有している。また、手術の内訳では、腹腔鏡下手術343件、胸腔鏡下手術158件、内視鏡手術245件、経皮的動脈塞栓術257件となっており、高度で侵襲度の低い手術では県内随一の症例数を有している。

さらに、専任の医師等による緩和ケアチームを設置し、入退院患者への緩和ケアの提供及び体制の充実に取り組んでいるほか、腫瘍センター（外来化学療法室）においては、厳正なプロトコール審査に基づく質の高い安全かつ標準的な抗がん剤治療を実施している。

以上のとおり、岩手医科大学附属病院は、本県に多いがん、特に難治性がんの集学的治療を行う中核的医療機関としての機能、がん医療を担う人材を育成する機能を有しており、また、指定要件についても十分満たしていることから、都道府県がん診療拠点病院として相応しいと判断する。

(2) 岩手県立中央病院

岩手県立中央病院は、全国がん（成人病）センター協議会の加盟施設として、長年、本県のがん医療の中核的施設としての機能を担い、また、地域がん診療拠点病院指定（平成15年12月）、日本医療機能評価機構認定（平成16年12月）を受けるなど、その有する診療機能の向上に努め、本県の25ある県立病院のセンター病院として、がん等の特殊・専門専門医療の提供体制の拡充を図ってきた。

平成10年6月には、がん診療施設情報ネットワーク（通称「がんネット」）を整備し、全国の中核的がんセンターとのTV会議方式のメディカルカンファランスにより常に最新のがん診療に関する情報を入手・活用するとともに、このカンファランスを地域医療機関にも開放し、がん診療に関する情報の普及を図っている。

こうした取組を進めるとともに各学会の診療ガイドライン等に準じた標準的な治療の実施体制の整備・充実を図り、診療機能の向上に取り組んできたところである。この取組の成果として、平成17年の治療実績は、悪性腫瘍手術1,062件、放射線治療434件、化学療法（坑がん剤治療）250件となっている。特に、胃・大腸443件、肺82件、乳房112件の悪性腫瘍手術件数は県内一の症例数を有している。

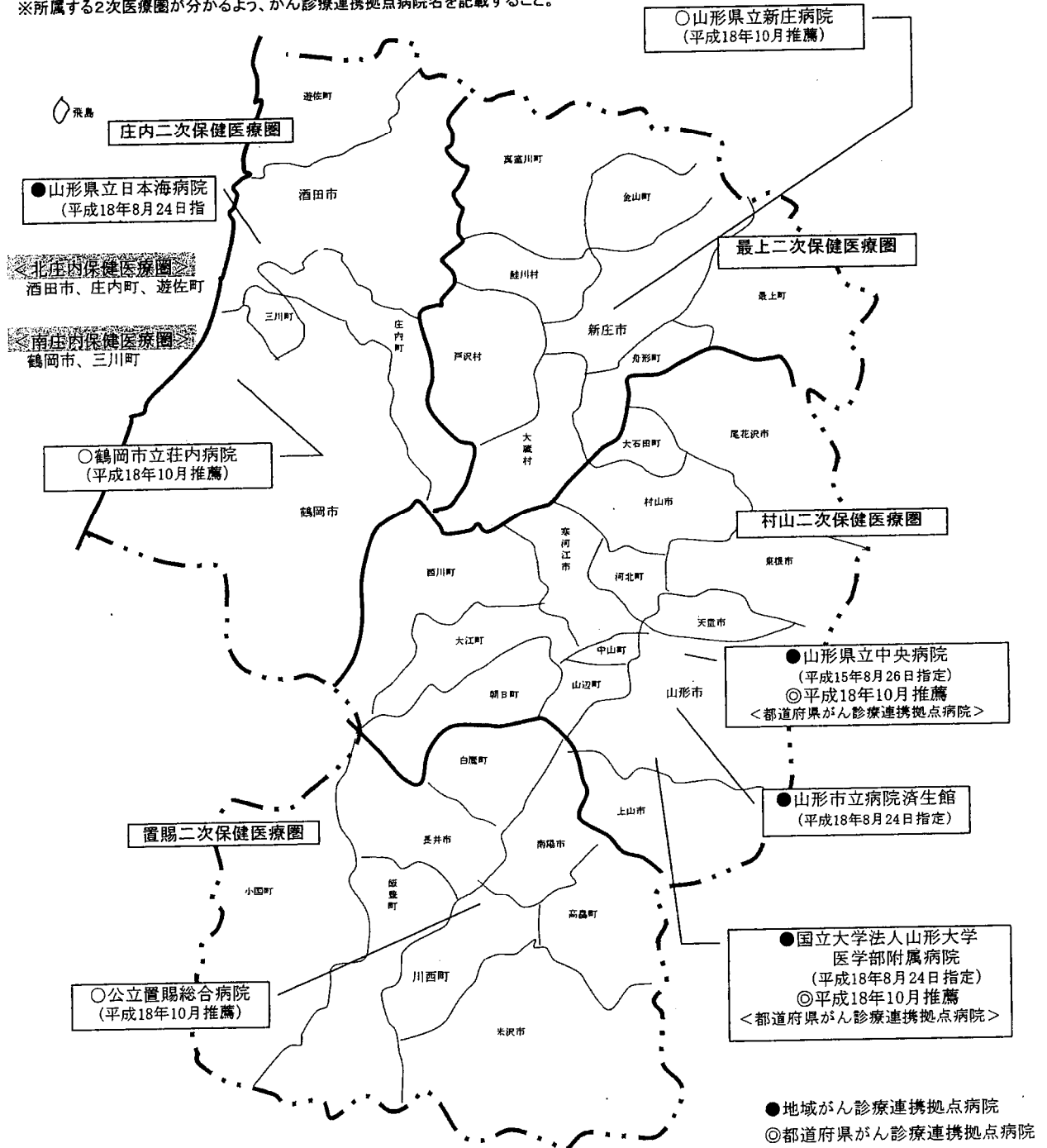
また、平成17年4月からは専任の医師等による緩和ケアチームを設置し、入院患者への緩和ケア提供及び体制の充実に取り組んでいる。また、退院患者については平成15年10月設置したがん化学療法科（外来化学療法）、ペインクリニック科、精神科が相互連携・情報共有してフォローアップする体制を整備している。

以上のとおり、岩手県立中央病院は、本県に多いがんの集学的治療を行う中核的医療機関として機能を有しており、また、指定要件についても十分満たしていることから、都道府県がん診療拠点病院として相応しいと判断する。

【山形県】二次保健医療圏とがん診療連携拠点病院

1 圏域図

※所属する2次医療圏が分かるよう、がん診療連携拠点病院名を記載すること。



2 概要 (面積・人口は4月推薦時と同じ)

(平成18年4月1日現在：人口は10月1日現在)

医療圏名	面積(km ²)	人口(人)	人口割合(%)	人口密度(人)	病院数	がん診療連携拠点病院				
						既指定病院数	今回推薦病院数	計		
村山	2,619.14	574,750	47.60%	219.4	34	3	(2)	0	(2)	3
最上	1,803.62	89,565	7.42%	49.7	6	0		1		1
置賜	2,495.52	236,370	19.57%	94.7	13	0		1		1
*庄内	2,405.11	306,828	25.41%	127.6	17	1		1		2
計	9,323.39	1,207,513	100.00%	129.5	70	4	(2)	3	(2)	7

*庄内圏 北庄内圏(酒田市・庄内町・遊佐町)の人口 157,375 人
 の人口 南庄内圏(鶴岡市・三川町)の人口 149,453 人

注1) 「人口割合」欄は、県全体の人口に対する圏域ごとの割合を記入すること。

注2) 「人口密度」欄は、各医療圏ごとに、人口/面積(km²) (小数点以下第2位四捨五入)により算出した数値を記入すること。

注3) 「病院数」欄は、拠点病院以外の病院も含めた数を記入すること。

山形県の二次保健医療圏と今回推薦病院のがん診療実績

平成10年～平成14年診断患者<山形県地域がん登録 平成18年8月現在>

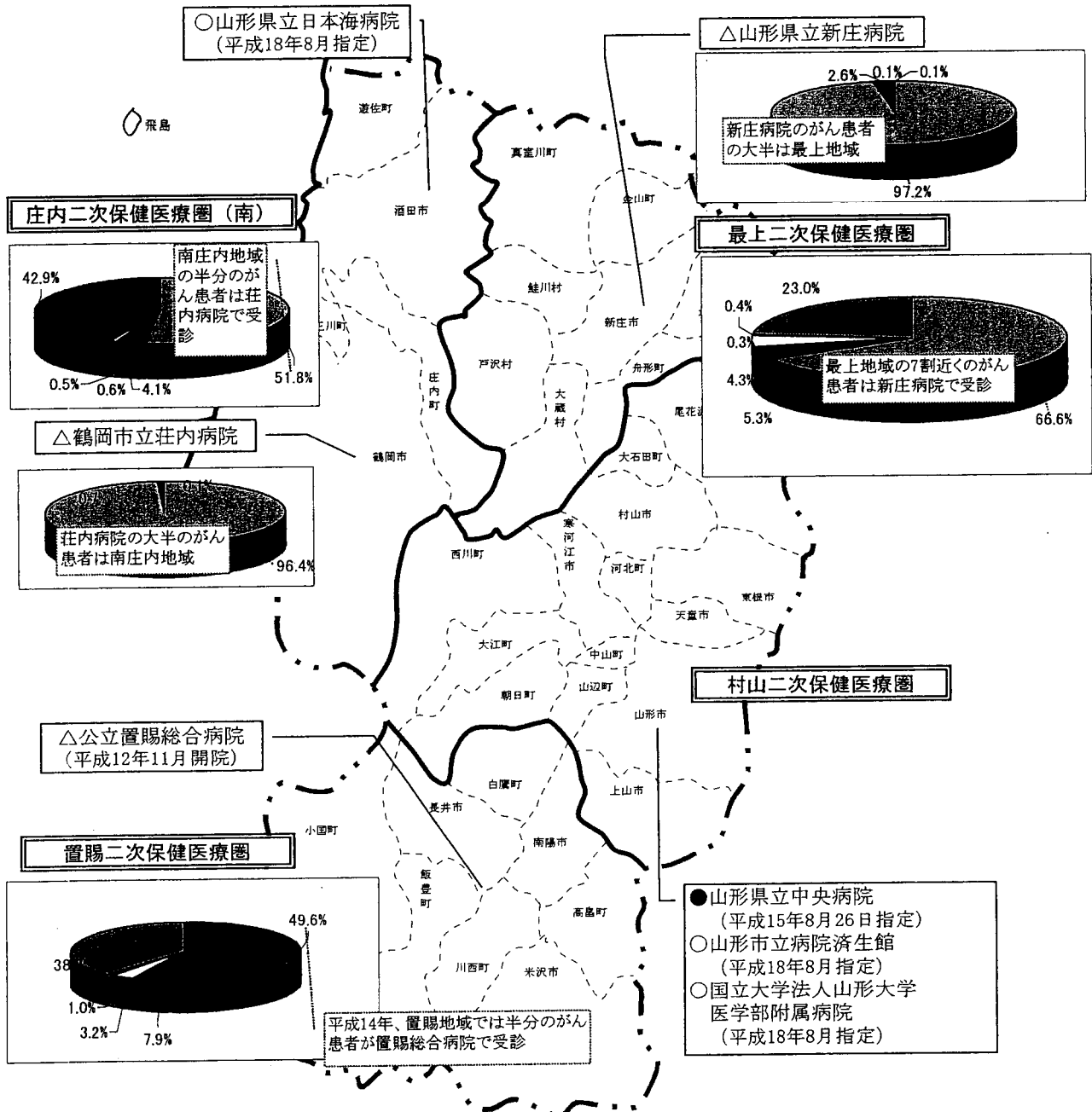


表1 平成10年～平成14年診断患者 医療機関別地域受療者 (%)

	村山	最上	庄内		置賜	診断患者数
			北	南		
山形大学病院	7.1	4.1	1.9	1.9	22.4	2,759件
山形県立中央病院	90.6	2.0	1.0	1.0	6.4	4,572件
山形市立済生館	96.3	0.3	0.2	0.2	3.3	2,301件
県立新庄病院	2.6	97.2	0.1	0.1	0.1	1,440件
県立日本海病院	0.3	0.4	90.5	8.6	0.1	2,045件
鶴岡市立庄内病院	0.1	0.1	0.7	96.4	0.0	2,225件
公立置賜総合病院	0.3	0.3	0.3	99.4	0.0	1,462件

表2 平成10年～14年診断患者 住所地域別受療医療機関(%)

	村山	最上	北庄内	南庄内	置賜	置賜 (H14のみ)
山形大学病院	7.9	5.3	0.5	0.6	9.3	7.9
県立中央病院	26.7	4.3	0.5	0.5	4.4	3.2
山形市立済生館	14.3	0.3	0.1	0.0	1.1	1
県立新庄病院	0.2	66.6	0.0	0.0	0.0	-
県立日本海病院	0.0	0.4	38.3	4.1	0.0	-
鶴岡市立庄内病院	0.0	0.0	1.7	51.8	0.0	-
公立置賜総合病院※	0.0	0.0	0.1	0.0	21.9	49.6
その他	46.0	23.0	58.7	42.9	63.3	38.2

② 国立大学法人山形大学医学部附属病院

山形大学医学部附属病院は、昭和48年に開校した山形大学医学部の附属病院として昭和51年に開院、平成4年特定機能病院に承認され、現在17診療科564床で大学附属病院としては、北日本でも有数の規模を誇っています。医学部創立30周年を超え、現在までに山形県内の主要病院の勤務医の50%以上は山形大学医学部の卒業生が占めるまでになっています。

山形大学医学部では、がんを教育、研究、医療の最も重要な課題として位置づけ、平成15年に腫瘍分子医科学講座を開設し、平成17年には、診療科横断的ながん診療情報の集約化、がん診療の質の向上、地域社会に向けてのがんに関する情報の発信などを目的として、がん患者登録センター(院内がん登録)、高度がん診療企画室、がん遺伝子診療研究部、がん予防・診療広報室、外来がん化学療法室、がん診療連携センターの6部門よりなるがんセンターを国立大学で始めて組織しています。診療実態からは小児悪性疾患、血液腫瘍、卵巣がん等の稀少がんでは県内のがん診療を質量ともにリードしております。また、現状の放射線治療では最先端技術である重粒子線治療機器を導入することが計画されており、東北一円の放射線治療の中心的存在となる見込みです。

地域連携としては、蔵王協議会(山形大学医学部教授会、同教室員会、関連病院会(県内60病院、県外14病院)および山形県が構成員)が平成14年に発足し、卒後臨床研修体制の整備、関連医療施設との連携体制の強化、医師の適正配置体制の整備などに関する事業を展開しています。また、平成16年には、文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(現代GP)に、「生涯医学教育拠点形成プログラム」の課題で採択され、地域における医療スタッフに対するいわゆる生涯教育のみならず、高度先進医療を含めた専門教育の提供システムを開発しつつあります。がん診療の充実強化は、これら医療の地域連携、医療スタッフの専門・生涯教育の重要な到達目標の一つであり、それを推進するために、組織の強化のほか、遠隔診断システムの導入などのIT化を含めたインフラ整備も行われています。

以上から山形大学医学部附属病院は、都道府県がん診療連携拠点病院としての要件を十分満たしており、山形県のより高度ながん診療体制を構築するためには欠くことのできない施設と考えられます。

(2) 2施設体制が必要な理由

両病院とも、すでに地域がん診療連携拠点病院として認定されており、都道府県がん診療連携拠点病院としての要件も十分具備しているものと判断されますが、要件ごとに見ると、がん診療スタッフ研修などの人材育成の面や診療医師の派遣調整など人事交流の面や、豊富な人材を活用した稀少がんの診療及び重粒子線などの特殊で専門的な診療では山形大学医学部附属病院に、また、本県に多いがんの豊富な診療実績を基にした診療支援や地域がん登録を通じた情報提供の面や院内がん登録データの分析・評価の面では山形県立中央病院がそれぞれ特に優れた機能を発揮しています。山形県の高度ながん診療体制を確立するためには、都道府県がん診療連携拠点病院に当たっては、二者択一よりも、それぞれの特に優れている機能を最大限に有効活用する機能分担型の2施設体制を構築する必要があり、相乗効果も期待できる点からもより適切であると判断します。

2 地域がん診療連携拠点病院

(1) 指定の現状と推薦状況

保健医療圏	既指定病院	今回推薦病院	備考
村山保健医療圏	○山形県立中央病院 ○山形市立病院済生館 ○山形大学医学部附属病院	☆山形県立中央病院 ☆山形大学医学部附属病院	都道府県 2 地域 1
最上保健医療圏		○山形県立新庄病院	地域 1
置賜保健医療圏		○公立置賜総合病院	地域 1
庄内保健医療圏	○山形県立日本海病院	○鶴岡市立荘内病院	地域 2

☆は都道府県がん診療連携拠点病院 ○は地域がん診療連携拠点病院

(2) 保健医療圏域とがん診療連携拠点病院について

① 村山保健医療圏

村山地域については、山形県立中央病院、山形市立病院済生館、山形大学医学部附属病院の3病院が現在地域がん診療連携拠点病院として指定を受けておりますが、本県の高度ながん診療体制を確立するためには、今回それぞれ特に優れている機能を有する山形県立中央病院と山形大学医学部附属病院の2病院を都道府県がん診療連携拠点病院に推薦しております。

② 最上保健医療圏

最上地域は、県内でも高齢人口割合が27.4%と一番高い上に過疎の町村も多く、域外への移動が比較的少ない地域であります。県立新庄病院のがん患者を見ても、患者のうち97.2%は最上地域の人であり、最上地域のがん患者の約7割は県立新庄病院で診療を受けています。このように、がん診療に関して最上地域では多くのがん患者が、県立新庄病院の診療で完結しているといえます。

また、県立新庄病院は以前から地域の病院や診療所と連携しながら、在宅医療を積極的に推進し地域の高齢者医療の確保に努めております。

このように県立新庄病院は、がんの取扱い件数は1,440件と少ないですが、最上地域のような高齢人口の割合が高く移動手段が少ない地域では、当該病院を在宅ケアなどに重点を置いたがん診療を行う地域がん診療連携拠点病院として充実させる必要があると考えております。

しかし、がんの症例によっては高度な治療を必要とする場合があることから、県内の都道府県がん診療連携拠点病院から専門医の派遣を受けることや病院間の職員交流などよりがん診療スタッフの資質向上に努め、最上地域の人々のがん診療に対する期待に応えてまいります。

③ 置賜保健医療圏

公立置賜総合病院は、平成12年11月に開院した新しい病院で、基幹病院と3つのサテライトの公立病院（公立置賜長井病院、公立置賜南陽病院、公立置賜川西診療所）が連携を図りながら診療を行っていますが、このような取り組みは全国的にも先駆的なものであります。

公立置賜総合病院は置賜地域の中心的な病院ですので、がん診療に関しましても、平成14年置

賜地域のがん登録の状況を見ると、公立置賜総合病院のがん患者のうちほぼ全員が置賜地域の人であり、置賜地域のがん患者の50%が公立置賜総合病院を受診しており、公立置賜総合病院は置賜地域のがん診療における中心的役割を担っています。

また、公立置賜総合病院は在宅ケアにも力を入れており、日常的ケアについては地域病院に近いサテライト病院が受け持ち、高度な診療が必要な場合には基幹病院が診療に当り、特に専門性を有する診療に関しては山形大学医学部から派遣された専門医が診療を行う体制を整備することとしております。以上のように基幹病院とサテライト病院が連携してがん診療を行う体制を整備するのは全国のモデルケースになると考えております。

④ 庄内保健医療圏

庄内地域は歴史的、文化的だけでなく、地理的、交通体系や住民の生活行動範囲が酒田市を中心とする北庄内地域と鶴岡市を中心とする南庄内地域に分かれております。そのため、がん患者の受診行動を見ても南庄内地域（鶴岡市、三川町）と北庄内地域とに区別することができます。

南庄内地域は人口150,000人で、平成10年から平成14年までの地域がん登録のデータを見ると、南庄内地域のがん患者の51.8%は鶴岡市立庄内病院を受診しており、南庄内地域のがん患者で県立日本海病院を受診したのは4.1%に過ぎず、南庄内地域のがん患者の診療は鶴岡市立庄内病院を中心とする南庄内地域の病院で完結しているといえます。

一方、北庄内地域は人口157,000人で県立日本海病院と酒田市立病院が中心的な病院です。北庄内地域のがん患者の38.3%は県立日本海病院を受診しており、酒田市立病院にも同じ程度のがん患者が受診しています。北庄内のがん患者で鶴岡市立庄内病院を受診したのは1.7%に過ぎません。また、県立日本海病院と酒田市立病院とは統合の話が進んでおり、今後は県立日本海病院が北庄内地域のがん診療に占める重要性は益々増加するものと考えております。

このように庄内地域の状況を見ると、がん診療に関しては北庄内と南庄内の両地域に拠点の病院を設置したほうが地域住民の利益に資するものと考えます。

3 まとめ

本県のように、2次医療圏が広くまた人口規模も比較的大きく、移動手段が自家用車中心の場合は、患者が地域を超えて移動することが少なく地域内で完結する傾向にあります。がん診療に関しても、地域住民は生活の基盤となる地域内で完結し、他の地域にまで出かけていくことは少ないと考えられます。県としては住民のがん診療に関する期待が地域内で完結することであるならば、生活の基盤となる地域内に地域拠点病院を設置し、がん対策を実施していく必要があります。しかし、県内のがん患者には等しく高度な医療を提供する必要があることから、地域の拠点病院では対応できないような症例については、2つの県拠点病院が専門医師の派遣や診療支援などにより、地域拠点病院のがん診療に関する質の向上を図る体制を構築し、本県のがん診療の均てん化を図ってまいります。

厚生労働省健康局長 殿

平成18年10月31日

山形県健康福祉部長

